

## 【熊本 S.J.C.D.例会 抄録】

演 題 前歯部修復における CR 修復の可能性

～セラミック修復とのコンビネーション～

演者名 陶山 新吾

日 付 2011 年 11 月 22 日

keyword

- 1.シェードマッチング
- 2.MI
- 3.移行充填

抄 録

う蝕は、エナメル質に再石灰化が可能な脱灰から始まり、再石灰化が不可能な窩を形成した後、象牙質・歯髄へと進行し、最終的には歯冠は崩壊し歯牙の喪失に至る。従来とう蝕治療は、特に臼歯部においては、金属やセラミックなどによるインレーやクラウンなどの間接修復がほとんどである。この間接修復は、予防拡大や便宜形態の付与が必要となり、健全歯質が犠牲となる。一方、コンポジットレジン修復(以下,CR 修復)は、健全歯質の可及的な保存が可能であり、また歯髄への刺激を軽減できる(根管治療の回避)。健全歯質の保存は、歯牙の喪失に至るステージを遅らせることができ、結果として『歯の延命』につながると考える。

また、CR 修復は前歯部において審美・機能性の回復を図ることが可能である。しかし、実際は色調の調和・形態の付与が難しいのが現実である。特に色調に関してはシェードテイキングを行っているにも関わらず、充填後は歯牙とシェードがマッチしていない事を多く経験する。この度、少ない色でスピーディーに仕上げる方法を臨床に応用した2症例を報告させていただきます。

諸先生方のご意見、ご指導宜しくお願い致します。